

## 1903 創業

明治36年

中山太一、化粧品雑貨卸業として「中山太陽堂」を創業。



創業者である中山太一は、天に登りつづけ光を照らす太陽のように、難関にもくじけず努力することが必要であると考へ、社名を「中山太陽堂」と定めた。

## 1906 第一号

明治39年

初の自社製品「クラブ洗粉」を発売。



約1年間で400万個を売り上げ、「風呂屋の前を通るとクラブ洗粉の香りがする」と言われたほどの大ヒット商品となった。

「クラブ」と「双美人」を商標登録。



創業の地である神戸の社交場に人が集う西洋的で楽しいイメージを表す「クラブ」と、「ひとりよりふたり、多くの女性を美しくする」という当社理念に通じる「双美人」を商標登録した。

## 1910 広告

明治43年

フォード自動車を購入し、広告にも活用。



当時は珍しかった自動車の車体に商品名を記入し、社用車として使用。道路を走ると人だかりができ、交通整理の警官が出動するほどの人気ぶりで抜群の宣伝効果をあげた。

イギリス人薬学者・化粧品技師であるP. L. スミス氏を招聘。

英国式



イギリス人技師P.L.スミス氏を招聘。「美身クリーム」など、現在にも受け継がれているロングセラー商品を開発した。

P. L. スミス氏

## 1917

大正6年

「中山化学工業所」を設立。



## 1918

大正7年

工場・本社を水崎町(大阪市)に建設。



日本の化粧品業界初の本格的な近代工場には、最新のコンペヤーンシステムを導入するなど、東洋一の設備を備えていた。

## 1919 文具

大正8年

「日本文具製造株式会社」を設立。



文具の分野に進出。インクや万年筆、シャープペンシルなどを「プラトン」ブランドで発売。学生を中心に人気を呼んだ。

## 1922 出版

大正11年

プラトン社から文芸雑誌『女性』を出版。



系列の出版社「プラトン社」を設立し、文芸雑誌『女性』を出版。谷崎潤一郎、平塚雷鳥ら豪華執筆陣を誇った。

## 1921

大正10年

上野陽一による工場能率指導。

能率研究の第一人者・上野氏の指導のもと近代的科学的経営方法を導入し、業務の効率化に成功。その利益を自社のみのものとして、商品の増量などで顧客にも還元した。



六甲に「太陽閣」竣工。

中山太陽堂の貴賓接待に使用する一方、大阪市にも私財を投じて迎賓館として提供。関西の鹿鳴館的な役割を果たした。

## 1923 文化

大正12年

プラトン社から文芸雑誌『苦楽』を発行。

大阪と東京に「中山文化研究所」を創設。



創業二十周年記念事業として創設した文化研究所では、育児相談や美容技術講演、歯磨指導など女性を対象に文化的啓蒙活動を行った。

セオドア・ルーズベルト大統領夫人とご令息来日講演会

## 1924 海外

大正13年

中国・上海に店舗を開設し、海外市場を拡大。

輸出は明治時代から開始していたが、大正時代には、中国などアジア圏から、ハワイ、イギリス、南米まで販路を一気に拡大した。

## 1931

昭和6年

販売制度を確立。



定価販売の維持を目的とし、「陽級化粧品・堂級化粧品」販売制度と特定品制度という販売ルートの三本柱を確立した。

陽級化粧品

## 1939 設立

昭和14年

「株式会社中山太陽堂」を設立。

事業規模の拡大にともない、会社組織へと移行。中山太陽堂を株式会社化し、中山太一が初代社長に就任した。

中国・奉天に工場を建設。



海外での販売拡張をはかるため、現地生産体制を整備。奉天を皮切りとして中国各地に工場を建設し、操業を開始した。

中国奉天工場

## 1946 自転車

昭和21年

自転車の製造を開始。

戦後もなく工場に新設された金属部で自転車を生産。高い品質と優れたデザインで人気を博し、輸出の花形商品にもなった。



## 1952

昭和27年

新たな販売組織がスタート。

戦乱の間に混乱した販売ルートを整備。「太級・陽級・堂級」の三大系統を確立した。

## 1959 診断

昭和34年

チャームブック肌診断シート企画を実施。



講談社の雑誌『若い女性』の別冊付録としてチャームブックを添付。チャームブック内のシートに肌状態などを記入してもらい、送付した読者一人一人の診断結果を返送。この企画は大評判となり、4万通もの申し込みがあった。

## 1965 三代目

昭和40年

中山壽一が社長に就任。



三代目代表取締役社長として中山壽一が就任。旧来の体制を刷新し、部門ごとの独立採算制をとるなど近代的経営体制を整えるための改革に取り組んだ。

## 1970 設立


昭和45年

「クラブ商事株式会社」を発足。

時代の変化に応じて、製造業・販売業分離体制へと移行した。

「株式会社マリークワント コスメチックスジャパン」の誕生

イギリス・ガラコスメチックス社と技術提携。翌年、日本でのマリークワント化粧品独占販売権を獲得し、「株式会社マリークワントコスメチックスジャパン」が誕生した。



## 1971 新社名

昭和46年

「株式会社クラブコスメチックス」に社名変更。

「中山太陽堂」から「株式会社クラブコスメチックス」へと社名を変更。ブランド名と社名を一致させるとともに、現代の化粧品会社らしい社名で企業イメージの向上をはかった。



## 1973

昭和48年

「株式会社フルベール」を設立。

得意分野である自然派化粧品を取り扱う訪問販売に進出。販売ルートの多角化に成功した。

## 1974

昭和49年

「双美人マーク」が新デザインで復活。



創業70周年を記念し、イラストレーター山口はるみ氏による新デザインで「双美人マーク」を復活させた。

## 1976 移転


昭和51年

本社をタイヨービルに移転。

大阪市西区にタイヨービルを移転。グループ各社を集約し、クラブグループの本拠地とした。

## 工場

五條工場生産を開始。



奈良県五條市に新工場を建設。自然豊かな環境に配慮し、排水処理にも万全を期した。

## 2000 研究所

平成12年

「化粧品文化研究所」が稼働。

奈良県生駒市に、研究・開発の拠点となる「化粧品文化研究所」が完成し、現在の拠点体制が整った。



## 2002 就任

平成14年

中山ユカリが四代目社長に就任。



新しい代表取締役社長に中山ユカリが就任し、四代目社長が誕生。品質最優先主義を継承するため、人材の育成に重点を置いた組織・環境づくりに着手した。

## 2004 ISO

平成16年

「ISO9001」認証取得。

品質マネジメントシステムの国際規約である「ISO9001」を取得。さらなる品質、顧客満足度の向上をめざしている。

## 2005

平成17年

「クラブ化粧品販売株式会社」と合併。

「クラブ化粧品販売株式会社(旧クラブ商事株式会社)」と合併し、製造業・販売業を一体化した。

## 2009 新本社

平成21年

新本社ビル竣工。



ユニバーサルレイアウトを導入するなど、多様な業務への柔軟性とスピード化を可能にする次世代対応型の新本社ビルを竣工。

## 2012

平成24年

「株式会社サロン ドフルベール」と合併。

子会社であった「株式会社サロン ドフルベール(旧株式会社フルベール)」と合併。